

令和4年度

## 会派新政会行政視察報告書

### 1 日 程

令和4年11月7日（月）～9日（水）

### 2 調査（視察）場所・調査（視察）事項

福岡県柳川市：大規模水害対策について

広島県広島市：寄附金を活用したサッカースタジアム等整備事業について

### 3 出席議員

会派新政会議員

小勝裕真会長・金子正則副会長兼会計・齋藤理史幹事長

栗原 肇幹事・山下雄希監査

### 4 調査結果

次のとおり

# 福岡県柳川市

## ○柳川市の概要

【人口】63,566人（令和4年3月31日時点） 【面積】77.15km<sup>2</sup>

【令和4年度一般会計予算額】30,836,000千円 【議員数】19人

柳川市は福岡県南部、筑後平野の西南端に位置しており、南は有明海に面している。

国内最大の干潟を有する有明海は、干満差が大きく干拓に適しており、市南部は、中世から戦後までに開かれた大小規模の干拓地が海に向かって魚鱗状に広がる海面干拓地帯である。また、感潮河川の最下流に位置し、市全域が平坦な地形で元々水が十分にある地域ではなかったが、先人の知恵と技術によって、市全域に縦横に水路が巡る独特な景観が築かれている。

## 1 柳川市の被害等について

柳川市の水路の総延長は約930kmであり、市内全域が浸水想定区域となっている。

平成24年7月の九州北部豪雨では、沖端川の中山地区と矢部川の六合地区の2か所の堤防が決壊し、避難所の孤立などにより自衛隊の派遣要請にまで至った。

市域の3分の1が冠水し、床上浸水は380戸、床下浸水は953戸、また、農地は土砂で埋まり、農業用施設、機械や海苔加工施設なども被害を受け、被害総額は24億円に上った。

九州北部豪雨を教訓に防災・減災対策の検証・見直しを実施したとのことである。

## 2 主な質問事項

### (1) コロナ禍における避難所の運営方法及び感染対策について

- ・避難所1施設につき職員2名～4名を派遣して対応。  
※避難所53施設（うち1施設はペット受入可）のうち4施設が福祉避難所
- ・初動期の避難所運営は、市職員・教職員・施設職員で対応。また、混雑時は職員を増員。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、手指消毒や検温などを実施。

### (2) 第一次避難所から第二避難所への移動方法及びタイミングについて

- ・平成24年の九州北部豪雨では、避難所内や周辺が浸水し孤立してしまったため、避難者を自衛隊のボートや警察の大型輸送車で別の避難所に移送した。
- ・洪水・高潮による被害が予想されるときは、2階建て以上の避難所を開設するなど、災害の規模や場所に応じた避難所の開設を行う。

### (3) 一人暮らし高齢者などの災害時要援護者の移動手段及び支援について

- ・本人又はご家族の方に対し、市の要援護者台帳への登録を促している。
- ・登録情報の提供に同意した方は、市から民生委員や行政区長へ情報提供を行い、支援に活用。

### (4) 年度間における避難訓練の実施回数及び内容について

- ・年1回、医師会、消防団や地域婦人会連絡協議会など約500人が参加する防災訓練・水防訓練をメニューとした避難誘導訓練を実施している。

#### (5) 災害時における医師会や中核病院との連携について

- ・柳川山門医師会と医療救護活動の協定を締結し、訓練にも協力（参加）。
- ・柳川病院を災害時後方医療施設（緊急集中救護所）として指定。
- ・柳川病院は、地域の中核病院である久留米大学病院や佐賀大学附属病院と高度医療連携のほか、医師会や大学病院などと医療連携。

### 3 視察状況



### 4 所感等

ハード面での対策として、国の機関である九州地方整備局及び県は、決壊した矢部川及び沖端川の堤防整備などの改修工事を実施した。

また、ソフト面での対策として、柳川市は国・県と連携し、災害時に市民へ新たに画像や水位情報などの防災情報を提供できる環境を整備するとともに、逃げ遅れ防止の観点から、指定避難所を増やしたほか、避難所として病院、福祉施設や専門学校等の民間ビル等の活用を図った。特に、平常時の防災訓練に市内にある病院や医師会の先生方にも参加していただくことで、行政との連携を深めていた。

加須市においても、災害拠点病院に指定されている済生会加須病院や医師会の先生方の協力を得て、災害時の医療体制をさらに強化することが、市民の安心安全の確保につながるものと改めて実感した。

# 広島県広島市

## ○広島市の概要

【人口】1,186,408人（令和4年3月31日時点） 【面積】906.69km<sup>2</sup>

【令和4年度一般会計予算額】658,962,913千円 【議員数】51人

広島市は広島県西部の安芸地方に位置し、広島県の県庁所在地及び最大の都市で、政令指定都市であり、緑豊かな山々、風向明媚な瀬戸内海、清らかに流れる太田川、瀬野川などの豊かな自然に恵まれている。

また、世界で初めて原爆が投下され、現在は国際平和文化都市として「平和への願い」を世界中に広げている。

## 1 寄附金を活用したサッカースタジアム等整備事業について

（公財）広島県サッカー協会等から、サッカースタジアム建設早期実現のための署名が約37万件集まったと報告を受けたことにより、県・市・広島商工会議所・県サッカー協会で組織する「サッカースタジアム検討協議会」を設置した。その後、知事・市長・商工会議所会頭・サンフレッチェ広島会長の4者による意見交換や会談を行い、本事業を実施する運びとなった。

本事業は、国庫補助金、県負担金、市債等に加え、スタジアムを本拠地とするプロサッカーチーム「サンフレッチェ広島」の協力の下、寄附金を財源としている。

## 2 主な質問事項

### （1）市外居住者への寄附金募集のPR方法及び寄附額全体に占める割合について

（主なPR方法）

- ・市HP、県広報紙及びふるさと納税サイト（ふるさとチョイス）への掲載。
- ・県内のスーパーマーケットやコンビニエンスストアでリーフレットを配架。
- ・サンフレッチェ広島と協力し、試合会場等で募金箱の設置やサンフレッチェ広島によるHPやSNSを活用したファンへの周知。

（寄附額全体に占める割合）

- ・寄付額の全体は3億7,563万5,706円で、うち市外居住者の寄附額は2億724万2,760円であり、割合は55.2%である。

### （2）プロサッカーチームであるサンフレッチェ広島との連携について

- ・建設に係る合意形成を図る場として令和元年7月に設置したサッカースタジアム建設推進会議にオブザーバーとして参加。
- ・寄附金の返礼品として、専用のサンフレッチェ広島応援グッズを作成。
- ・市HPとサンフレッチェ広島HPのリンク貼付。
- ・サンフレッチェ広島HP内にスタジアム専用サイトを開設。
- ・ホームゲーム会場等における募金活動の実施。
- ・街頭樽募金の実施。

(3) 本事業の資金計画について

【全体事業費及び財源内訳】

○事業費：270 億 9, 100 万円

サッカースタジアム等整備 256 億 9, 600 万円	埋蔵文化財発掘調査 8 億 3, 100 万円	にぎわい施設整備 3 億円	CM業務 1 億 6, 500 万円	その他 9, 900 万円
---------------------------------	----------------------------	------------------	-----------------------	------------------

(財源内訳)

国庫補助金 80 億 1, 500 万円	寄附金 63 億円	市債 (使用料収入償還分) 27 億 1, 000 万円	民間資金 3, 000 万円	県市負担額 100 億 3, 600 万円		
				実質負担額 86 億 8, 800 万円		地方交付税相当額 13 億 4, 800 万円
				県負担分 43 億 4, 400 万円	県負担分 43 億 4, 400 万円	

※国庫補助金、寄附金等は当初に見込んだ目標額

(4) サッカースタジアム等整備事業に係るプロポーザルの業者選定において、重視した内容・項目について

- ・優れたデザイン力と技術力。
- ・最高の試合環境、観戦環境を実現するスタジアムの計画。
- ・ゲームデーに限らずノンゲームデーを含むにぎわい創出に寄与するスタジアムの計画。
- ・「街なかスタジアム」として 365 日の県民・市民の愛着を生み出す広場の計画
- ・中央公園広場やその周辺、本川沿いの水辺空間と調和しながら、平和都市としての現代の「広島らしさ」を体现するデザイン。
- ・世界中に魅力的にアピールできる工夫。
- ・工程計画及び工期短縮と提案工期に対する工期遅延防止に関する具体的な方策。

(5) 整備エリア内において取り入れた機能及びその内容について

- ・ユニバーサルデザイン  
あらゆる人たち（車イス使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的・精神・発達障害者等、子ども連れ利用者、LGBTQ、高齢者、外国人利用者）が使いやすい施設。
- ・先端エコスタジアム  
コストを抑えつつ効果的に環境負荷を低減する環境共生型スタジアム。
- ・SDGs を見据えた国際基準となるスタジアム  
スポーツを通じて持続可能な社会を実現。
- ・発災時の避難場所  
フィールドを含めたスタジアム内も避難場所として利用可能。
- ・ビオトープ  
既存の森の中に水辺空間を設け、生きものが生息しやすい環境を整備

など

### 3 視察状況



### 4 所感等

広島市のサッカースタジアム等整備事業は、寄附金の募集において、スタジアムを本拠地とするプロサッカーチーム「サンフレッチェ広島」と協力し、市のホームページへの掲載だけでなく、サンフレッチェ広島のホームページへの掲載、SNSや試合会場等へ募金箱を設置するなど、様々な方法でPRを行っている。特に、ふるさと納税を活用した寄附金の募集では、返礼品のメニューとして、応援グッズセット、シリアル番号入り記念カードやスタジアム完成後の内覧会への招待等を探り入れるなどの工夫がされていた。

加須市のふるさと納税は、住民税の控除額が寄附額を上回っているため、加須きずなスタジアムを本拠地としている埼玉西武ライオンズ・レディースとさらに連携を深めながら、寄附金募集のPR方法等について、研究していきたい。